

○岡田議長 これより会派の議員による関連質問に入ります。

初めに、松田議員。

〔松田議員質問席へ〕

○松田議員 会派よなご・未来、松田真哉です。国頭議員の代表質問に関連して質問をしてみたいと思います。市民の皆様に託された4年間で最後の定例会、この3月議会となりました。せっかくの機会ですので、市長をはじめ執行部の皆様と率直で、本音で議論をしてみたいと思います。どうかよろしく願い申し上げます。

順番がちょっと時間の都合上、先に駅前通りの3車線化についてから質問に入りたいと思います。申し訳ありません。よろしく願いいたします。

駅前通りの3車線化については、昨日から実証実験がいよいよ開始しました。やはり賛否ある中で実証実験、進められるということでした。そこで、私、朝、歩いて見てみました。今朝見えますと、やはり一定の渋滞というか、車線が減る中で、警備員というか、交通整理の方は狭くなったところにおられましたけれども、中には高齢者の方が車線を移るときにクラクション鳴らされて、そのようなことも見かけました。改めて、昨日から始まっておりますので、大きな事故とかそういったものは今のところないのか、そのほか市民の方から何か意見等は今のところ実証実験についてございますでしょうか伺いたい。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 実証実験は昨日から開始をさせていただきました。事故、安全対策に最大限配慮して行っているところで

あります。誘導員も配置する形で実施をしております、現段階でそういった事故等の報告は入ってございません。また、市民の皆様方からは、事前の説明会ですとか、いろんな形で御意見を伺う機会もございます。様々な御意見もございますが、いずれも真摯に対応していきたいというふうに考えております。以上であります。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 事故はないということで、取りあえずスタートとしては安心できるかなと思います。そこでですね、先ほど代表質問でも、この3車線化についての狙いというのが答弁ありましたけれども、なかなかこの駅前通りの歩行空間を拡大する意図というのが、もう少し市民のところには伝わってないのではないかなと思います。改めて、これ市長に伺いたいです。この駅前通りの車線を減らして歩行空間を広げることで狙う狙い、目的というのを、市長のビジョンを伺っておきたいと思います。よろしく願います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 代表質問での答弁でもお答えしたところですけども、歩行者に優しいまちづくりというものを進めていく中で、駅前通りという繁華街を貫く通りにつきましては、そうしたところについては、一部車線を減車してでも歩行者に歩く空間を広げることで配慮を示していきたいということが大事でございますが、そのことによる関連として、やはり歩く人が増えた場合、その地域のにぎやかな面が出てくる、にぎわいづくりということにも寄与いたしますし、答弁でも触れましたけれども、今、昨今この高齢化

社会が進んでおりまして、免許を返納される方も増えていらっしゃいます。そうした方々にとって、公共交通をある程度使えるようなまちにしていくということのためには、徒歩と公共交通が使えるエリアというものをやっぱり確保していかなければいけない。全てということにはなかなかありませんけども、一部であっても確保していかなければならない。そのことによって持続可能な公共交通というものを確保して、そして地域の中で末永く暮らしていけるような、安心して暮らしていけるようなまちづくり、これを目指すことに大きな意味がありまして、そのポイントとなる箇所として、駅前通りの3車線化を今、実証実験を進めているところでございます。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 にぎわいづくりというワードが出てまいりました。私は、やはり歩行者が増えていくこと、それが指標の一つなのかなと思いますが、その考えについて、市長、御見解を伺いたいと思いますが。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 交通量が幾ら増えても、それが車ですと、どうしても点と点の移動になってしまうということがございます。しかしながら、同じ交通量でも歩行者の方が増えると、そのエリアに関しましては、近隣の商店だとか飲食店だとか、そういったところにお客さんが入りやすくなります。そのことによるまちのにぎわいととも、経済効果というものが十分に、これは他の都市では検証されておりますので、米子においても、最も人通りが多いと思われる駅前通りにつきまして、このたびの実証実験に向かって

いるのはそうした狙いもあるというところでございます。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 やはり歩行者の交通量が増えていくことは、一つの狙いだと思います。そこで、今回の実証実験で歩行者の交通量について、調査、どのような内容で、頻度とか手法についてどのように行われるのか伺います。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 歩行者の交通量の調査でございますが、まずはビデオ観測調査を行います。調査箇所は、米子の駅前交差点から駅前通りの第1駐車場の間の歩道であります。調査日時につきましては、イベントを開催いたします3月21日、22日の2日間、時間帯につきましては、朝の7時から夜の19時までの12時間の連続撮影での調査を行う予定であります。加えまして、実証期間、これは全てを通じてGPSデータを活用した歩行者交通量調査も組み合わせて行っていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 私、重要になってくると思うのは、平日、何もイベントがないときにどれぐらい歩行者が増えるんだろうか、そういう視点が大変大事だと思うんですが、その辺り、回答であればイベントのときだけということではありますが、これでは不足するのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 先ほど御答弁申し上げましたとおり、実証期間も通じ、これは平日も含めてでございますが、このたびG

P S データを使った形で初めて調査を行いたいというふうに考えております。内容といたしましては、K D D I が提供いたします携帯の G P S データに基づきまして、これは歩行者の 2 4 時間、通行量のデータの確認、そして比較をしていきたいというふうに考えております。以上であります。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 ですので、人をつけての調査というのは、確認ですが、イベントのときだけしかしないということではよろしいのでしょうか。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 今年度につきましては、いわゆる人をつけての調査はいたしません。このイベントのときも、ビデオ観測調査、これは実際 A I 技術を活用いたしますが、できるだけデジタルを活用した形で今年度については調査を行ってまいりたいというふうに考えております。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 やはり私としては、歩行者が平素、イベントがないときにどれぐらい増えるんだろうかというのが一番のポイントだと思うので、私としては、ぜひこの 3 月、まだ実証実験始まったばかりなので、ふだん何もイベントがない時間帯、日時にどれぐらい歩行者が歩いているんだろうか、どういう方たちが歩いているんだろうか。そうしないと、この実証実験の結果を見ても、なかなか本当ににぎわいが生まれたんだかどうか、そういう判断が難しいと思うんですが、どうでしょう、もう少し平日、ふだんのときに増やすようなことは難しいでしょうか、いかがでしょうか。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 まず申し上げますと、GPSデータを活用した調査におきましては、これは例えば、ある程度まとまった期間で比較調査ができますので、例えば土日、あるいは平日で週ごとでどういうふうに変わっていくのかと。何人という数字までは出ないかもしれませんが、傾向は確認はできるというふうを考えております。また、当然ながら時間帯によりますけども、いわゆるスタッフを誘導、配置をするということは、これは道路交通法で定められておりますので、視覚的な形で確認をすることも可能でございますので、その点については若干工夫はしていきたいというふうを考えております。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 せっかく1か月調査を行うわけですから、本当に意味のある調査にさせていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

次の質問に入ります。

○岡田議長 暫時休憩いたします。

午前 11時52分 休憩

午後 1時00分 再開

○岡田議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

松田議員。

○松田議員 会派よなご・未来、松田真哉です。午前中の質問に続き、率直に本音で議論をしてまいりたいと思えます。

さて、日本の出生数、生まれた子どもの数が10年連続で最低

値を更新した、どんどん子どもが減り続けていく、そのような数字が示されました。これは、国の想定よりも17年も速いスピードで少子化が進んでるということです。人口減少、少子化、そして働く世代が割合がどんどん減っていく。これについては、私たちに与えられた、もう確定した条件であると言えます。しかしながら、ここで悲観しては終わりだし、その必要もないと思います。将来を見据えてどのように準備をしていくか、早めに先手を打って準備をしていくか。そうすれば、きっとよい未来が描けるのではないのでしょうか。米子市の場合も、やはりこのような人口減少社会、到来します。行政についても、サービスを維持しながら賢く縮んでいく、そのような視点が、より求められるのではないのでしょうか。この考え方を前提に質問をしてみたいと思います。

将来を見据えた市役所の在り方について質問をしてみたいと思います。

まず、市役所の借地、買取りの協議の状況について、確認も含め質問をしてみたいです。令和7年7月に市は借地の一部と市が持っている万能町の駐車場の土地、そして中町の土地の等価交換をして、残った部分、恐らく大きな面積が残ります。ほとんどの部分が残るんじゃないのでしょうか。これを15年先に先送りして買い取るんだ、そのような方針を示されました。これ市の方針というか、地権者の買取りの条件と言ってもいいのかもしれませんが。これについて、改めて今現在、借地買取り協議状況、そして今後の見通しについて、どのような状況なのか伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 本庁舎借地の交渉の現在の進捗状況でございます。現在、借地の取得に向けて、地権者と鋭意協議を進めているところでございます。具体的な契約内容について、法律の専門家の見解も確認しながら整理をしております、詰めの交渉を進めている状況でございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 今現在、この3月の定例会で改めて御報告いただくような大きな進展というのはあるのでしょうか、ないのでしょうか。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 先ほど申しましたように、まさに詰めの交渉を迎えている段階でございます、交渉事である以上、相手方とは十分な協議を進めているところでございます。交渉経過につきまして、議会のほうにも報告できる段階になりましたら、改めて御報告をすることになります。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 今議会で報告はあるんですか。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 契約に向けたスケジュールですけれど、公表できる状況になった段階で報告をさせていただくことでございます。相手方があることでございますので、当然ながらスケジュール等、今後の状況につきましても、一定の合意を相手方といただきながらということ考えております。ですので、今議会というよりは、職員は前向きに、まさに市の最重要課題でございますので、全力で向かっているという状況でございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 全力で向かってるけども、恐らくこの議会ではなかなか報告ないんじゃないかなと予想されます。市長は、市長選挙の中で、借地問題なんてすぐ解決するんだって言われましたが、この状況、スピード感について、市長の見解があれば伺いたい。いかがでしょうか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 進捗につきましては、今、部長から答弁をしたとおりでございます。去年のこの時期には、おおむね方向性というものが出ておりました。その後につきましても、都度都度報告したとおりでございます。一定の買取りに向けてのお互いの考え方はまとまっている状況の中で、あと詳細を今詰めているという状況でございます。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 私は、すぐにとということで市民の方は期待した感もあると思いますが、このスピード感は遅いなと感じておられる方多いんじゃないかなと思います。

次の質問に入ります。ここで市長が考える市役所の姿、先ほど人口減少や少子化、どんどん社会は変わっていく、それを踏まえて、市役所の庁舎、どのような役割とか機能とか、どのような姿を目指すのか、予測されるのか、市長の考えを伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 将来の市役所の姿ということで御答弁申し上げます。本市では、今後の人口減少を踏まえまして、また今後の財政負担の軽減、平準化を図るため、平成28年3月に米子市公共

施設等総合管理計画を策定しております。その趣旨を踏まえつつ、質の高い住民サービスの提供を念頭に置いた施設の有効活用を図るという観点から、令和元年7月に各庁舎の中期的な再編計画としまして庁舎再編ビジョンを策定し、糺町庁舎の整備やふれあいの里の機能の見直しなど、対象施設の再編を着実に進めてきたところでございます。庁舎再編に係る残りの課題につきましても、取組を進めていくことはもちろんでございますが、引き続きDX等の取組を進めまして、また来庁していただかなくても手続きができる、行かない市役所ですとか、スマホの中の市役所へと行政の在り方を進化させ、いわゆる自動化を図るとともに、職員は相談業務などの職員でなくてはならない業務を担うことで、質の高い住民サービスの提供をつなげることが必要だと考えております。このような取組に併せまして、従来の組織の在り方や執務スペースの在り方を見直して、徹底的な生産性の向上を図り、コンパクト化を進めていく考えでございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 私、ぜひ市長に答弁をいただきたいんですが、私はやはり先ほどあったように、相談業務というのがより重要になってくるんじゃないかなと思います。そうすると、市民の皆様が気軽に行けるような場所、気軽に行けるような市役所にしていく必要があるのではないかなと思います。今現在、やっぱり敷居が高くてなかなか相談しにくい、そのような思いを持っておられる市民の方もおられるのではないのでしょうか。市長、この辺り、いかがでしょうか。今後のビジョンをもう少し市長の口から語っていただきたい。お願いします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 ビジョンといいたいまいしょうか、具体的に既に先ほど部長が答弁したような、行かない市役所であるとか、スマートフォンの中でいろいろな物事が完結できる手続だとか、具体的に進めておりますので、それがこの行き先といいたいまいしょうか、方向性にある具体的な手法だというふうに思っております。したがって、今後、その人口が減少していきなり、我々市役所職員の職員数というものも恐らくこれは減少していかなければいけない、少なくなっていかなければならないだろうということの中で、可能な限り生産性を向上させて、少ない人数でもきちんと市民サービスの質を落とさないような、そのような役所を今目指して具体的な取組を、先ほど部長が答弁したとおりの取組を進めているというところでございます。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 コンパクト化というのは、やはり当然の流れかなと思います。そこで、来庁者についても確認します。来庁者の推移、また今後の推計、将来推計について伺います。まず、市役所の本庁舎について、どのような分析されているのか伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 市役所本庁舎の来庁者数でございますが、来庁者数の計測はしておりませんが、近年コンビニ交付の利用拡大ですとか、あるいは電子申請の対象の拡大などによりまして、令和元年度と令和6年度の市役所の駐車場台数で比較いたしますと、約40万台から28万台余り、大体約30%程度減少しております。また、窓口での証明書の発行数も、令和6年度の発行数は令

和元年度と比較しますと約36%減少しております。来庁者が大幅に減少している状況でございます。そして、将来の見込みでございますけれども、将来の来庁者の推移はなかなか見込みにくいところはございますが、先ほど申し上げました行かない市役所、スマートフォンの中の市役所、行政の在り方を進化させていく中で、さらに減少していくものと考えております。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 この本庁舎以外、そのほかの庁舎の分析もあれば伺いたいと思います。お願いします。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 本庁舎同様、それぞれの庁舎におきましても、来庁者数についての計測というのはしておりません。なお、淀江支所におきましては、窓口での証明書の発行数は、令和6年度の発行数は、令和元年度と比較しますと、本庁同様に約37%の減少となっております。将来の来庁者数の推移の見込みも、先ほど申しましたように行政の在り方を進化していく中で、特に淀江支所など窓口業務を中心とする部署におきましては、本庁舎と同様に減少していくものと考えております。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 将来推計の見立てがもう少し私は踏み込んであるべきだと思うんですが、これから市役所、庁舎を考える中で、将来の推計、今この時代によく分からない、どうなるか分からないではなくて、いろんな数字を、AIとかもあると思います。その辺りして、もっと検証していくことが必要じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 着実に減少はしていくものと考えております。具体の計測自体はしておりませんが、人口が減少していくこと、それから、先ほど申しました市役所の役割そのものが今後変わってまいりますので、何年度に何%というようなところまではまだ現段階では分析はしておりませんが、着実に減少していくもの、そして、職員の役割そのものが変わっていくものと認識をしております。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 私は、ぜひいろんな手段を使って、もう少しリアルな数字を分析する、それは必要だと思います。

次の質問に入ります。デジタル化とかペーパーレス化とか、いろいろ業務のやり方が変わってくると思います。そうすると、当然に将来に向けては、執務スペース、職員の数も変化していくでしょう。業務スペース、その辺りを、延べ床面積どれぐらいになるんだろうとか、どうしようとか、どうなっていくんだろうという検証とか、その辺りはどのようにされてるんでしょうか伺います。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 各庁舎の中長期的な再編計画として策定しております庁舎再編ビジョンに基づく対象施設の再編、今後、第2庁舎ですとか、あるいは旧庁舎の廃止などもございます。また、DX化の取組などに併せまして、組織の在り方や執務スペースの在り方を見直して、コンパクト化を図ることとしております。一方で、例えば昨今の給付金事業ですとか、あるいはインターハイな

ど時限的にスペースが必要になるものもございますことから、将来必要となる延べ床面積の推計というのは困難でございます。今後は、庁舎再編に係る取組をさらに進め、執務スペースをできるだけ有効活用いたしまして、不要な投資を行わないようにする考えでございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 業務スペースとか業務のペーパーレス化というのは、どの程度、今現在でどういうふうな形でどんなスケジュール感で進めておられるんですか。

○岡田議長 藤岡総務部長。

○藤岡総務部長 令和7年度におきましては、BPR、ビジネス・プロセス・リエンジニアリングですけれど、業務の在り方そのものを見直して、業務の手順も含めて、今、全庁的に取組を行っております。それらを通じまして、業務の在り方、組織の在り方を見直している、まさに今その最中で、これは総務部として中心になって事業を進めておりますけれど、全庁的に喫緊の課題ということで取り組んでいる状況でございます。以上です。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 先日、屋上から地下まで、いろいろ改めてこの庁舎を見させていただきました。キャビネットが壁のように積み上げられていて、その中にどれだけ必要な書類があるんだろうかなと思いました。書類なんかも積み上げられているものありますけど、もう少しこれ、ペーパーレス化したり本当に全部使うのか。もう少しこの辺り、業務スペース、在り方、減らしていくってことは、スピードアップしていくことが必要だと思います。一般企

業でも、やはり利益を生むために業務のスペースをスリム化していく。これは本気でやらないと、やっぱり維持できないから。行政も同様の視点が私は必要だと思います。

そして、私ここでやはり立ち止まって考えないといけないと思うのが、借地の問題について、買取りについてずっと話をしてまいりましたが、この大きな庁舎が、将来に向かってこれだけ大きなものが必要なんだろうか、そういう問いをもう一回しないといけないんじゃないかなと思うんです。借地の買取りについては、まだ協議中の状況です。あえて幸いにもと言いますが、協議中の状況で、その前にまず本庁舎がどれぐらい要るのか考えるべきだと思いますが、市長、御見解を伺います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 本庁舎がどれだけ要るかっていうのはもちろん考えますが、現在の状況の中では、例えばふれあいの里ですとか、糺町庁舎ですとか、下水道公社ですとか、上下水道局ですとか、そのような庁舎がそれぞれあるわけでございます。もちろん第2庁舎も今まだ少し使っております。そうした状況を考えるときに、本庁舎だけでどれぐらい要るかということではちょっと議論が足りないと思います。やっぱり全体感の中でどのようにしていくかということを考えるべきでありまして、それは、少し前になりますけども、庁舎再編ビジョンの中でお示しをした中でお話をしておりますので、そちらのほうを御覧いただければと思います。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 やっぱり再編ビジョン、令和元年の策定だと思うんですね。将来どんどん変わっていく。そして庁舎も、この本庁舎

以外も、どんどん在り方変わってきてると思うんです。将来に向けて人口も減って行って来庁者も減るだろう、業務をもっとスリム化するだろうということであれば、やはり私は一旦立ち止まって、大規模改修するにしても、本当にこれだけのものが必要なんだろうか、将来に向けてこの大きな建物が負担になることはないのか、そのような視点でもう一回私は検証をするべきだと思います。

市民感情としても、借地料を37億円、38億円払ってきて、そして今の考えでいくと、15年先までまた借地料を払い続けていく。そして、15年後にまた買い取るお金を支払う。そこまでしてこの本庁舎必要なんだろうか、そういう議論をしてもいいと思うんです。議場なんかでも、ここまで大きいものが必要なんだろうか。副市長、笑っておられますけど、市民はやっぱり華美な市役所って目指してないと思うんです。副市長、お考え、何かありますか。私の意見で何かさっき笑われたんで、御意見あれば述べていただけますか。

○岡田議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 議員おっしゃるように、行政のサイズといいましょうか、これはもう絶えず見直ししていく必要があると、このように考えております。議場のサイズの話をごここで当局に向かっておっしゃる真意が何があるのかなと思ったんで、思わず笑みがこぼれたというのが正直なところであります。議場のサイズの問題は、議会において御議論いただければと思います。以上であります。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 私は、市民の目線から議場について述べさせていただきました。

岡山県の美咲町に昨年視察に行っていました。小さいまちですが、やはり高齢化、人口減少や過疎化が進んでいて、大変今後のインフラの管理なんかに懸念があった。そうするところで町長が決断をされて、公共施設を思い切って減らしていくんだという判断をされて、ちょうど庁舎の建て替えがありましたが、本庁舎の延べ床面積を一生懸命削って、40%減らされました。そして、建物自体、徹底的なコストダウンをされて、天井高も低くして、建築単価を抑えられました。議場なんかも、ふだん議会をやらないうときには会議室として職員が使う、市民が使う、そのようなしつらえです。私は、このような視点、賢く縮んでいくような柔軟な発想というのが必要だと思うんです。ですから、私はこの議場を例に取りました。議場ももっと活用できるんじゃないか、そういう視点は必要だと思います。市民としては、そんなに大きな巨大な市役所って、私はもう求めてないと思います。そして、私たちが将来を見据えたときに、本当に必要か、その議論はまだ私たち不十分じゃないかなと思います。

もう少し私は踏み込んで質問をしていきたいと思いますが、ここでやはり考えていかないといけないと思うのは、代表質問でも国頭議員が質問させていただきました駅前ショッピングセンターについて、今後いろいろ活用していくんだ、検討をしていくんだ、改めて方針が示されました。あくまでも商業施設なんだ、そのような考え方なのかもしれませんが、駅前ショッピングセンターも15年で、あと耐用年数に大体到達する。維持管理、コストも大

きなものがかかってくる。将来的にどうしようか。本当に曲がり角に来ていると思うんです。イオンリテールとの交渉も、3月で一旦更新の時期が来ると伺っておりますが、大きな賃料の増加というのは難しいと思います。そうすると、やはり将来維持するだけの、そして将来どんな形で大規模改修なり、場合によっては解体するのかもしれませんが。その辺りの積立てというか、お金というのが十分に捻出できない、そのような状況が私は将来を見たときに今現在の数字を見ると明らかだと思います。ですので、やはり私、以前も提案したと思いますが、駅前ショッピングセンター、駅前イオンを一部行政機能を考えてみる、こういったところも今のタイミングで検証してみてもいいのではないかなと思います。

例えば、1階は買物ができるようなスーパーを残しながら、2階から上に行政施設を持っていく。2階と3階で大体この市役所の本庁舎の大きさと同じぐらいの延べ床面積だったと記憶しております。さらに、ふれあいの里、淀江支所も、まだまだ空いたスペースがあるのではないのでしょうか。この辺りももう一回私は活用できないか、業務スペースとして利用できないか考えるべきだと思います。ふれあいの里、淀江支所ともに大会議室があります。参考までに、この2月、大会議室の利用状況を聞いてみました。調べていただきました。そうすると、淀江支所の大会議室は、1日から9日は所得相談、所得申告相談として利用されていきました。そのほかは、利用されていたのは3日間だけ、午後のみ利用されていきました。この所得申告相談がなければ、本当にもう数日しか稼働なかったんだなと思います。ふれあいの里も確認させていただきました。そうすると、2月は市民の利用はございませんでし

た。市の利用、これも1日だけ、1日だけ。ですので、ほとんど使っておられないんですね、2月だけ見ると。この辺もトータルで考えれば、執務スペースとしてまだまだ割けるんじゃないか。そういった場合に、本当にこの大きな庁舎が必要なんだろうか、そういう視点は考えてもいいと思うんです。そして、駅前イオン、これから将来に向かって今、曲がり角に来ている。駅前イオンを活用すれば、将来的にこのような大きな庁舎が本当に必要なのか、それも考える時期だと思うんです。そうすると、この借地の買取りが本当にこれ進めていいんだろうか。やはり私たち今までずっと議論してませんでした、私は立ち止まって、もう一回今使えるものをフルスペックで全部使って、本当にここまでの大きなものが必要なのか、そういう視点で物事を考える必要があると思いますが、市長いかがでしょうか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 いろいろ言っていたいただきましたけども、時間軸の話が全く出てないと、これ議論になりません。それはどれぐらいの期間の将来を言っていらっしゃるのか。我々は今年も来年も、そして再来年も仕事をしていかなければなりませんし、またイオンリテールが入っている駅前のショッピングセンターにつきましても、今まさに入居しておられる各テナントの皆さんがいらっしゃるわけでありまして。それを、将来というのが大体どれぐらいの将来を指しているのかが全く分かりませんので、正直、答えようがないというのが私の答弁になります。一つずつ順を追って、やはり当初、庁舎再編ビジョンというものを議員の皆様にお示しをさせていただいたわけでございます。その時点で議員の皆様には御

納得をいただいて、今に至っているというところでございます。もちろん時間がたっておりますので、若干の微調整といたしましうか、修正すべき点は出てきているとは思いますが、基本的な方針として、本庁舎はこれからも使い続けるために買取りを行っていくということ。

それから、各ふれあいの里ですとか、あるいは第2庁舎ですとか、あるいは淀江支所ですとか、そうしたところ。ふれあいの里と淀江支所については、執務スペースとしてはもう目いっぱい使っております。確かに会議室は空きがあるときはありますけども、そこもふだん執務スペースとして使うと、今度は会議室がなくなってしまうので、それは市民の皆さんも使われる会議室でございまして、そうした使い方はいかなものかというふうにも思います。

したがって、全体的にはスリム化していくときに、新しいものを建てたりだとか、あるいは今ある、何ていうんですかね、ショッピングセンターのテナントに出ていってもらえるかのような前提の議論とか、そうしたことをですね、十分な時間軸をお示した上で御提案があれば検討するかもしれませんが、現時点においては念頭にはないというところでございます。

○岡田議長 松田議員。

○松田議員 将来、10年、15年先をやはり今の早い段階で準備をして、いろいろ想定をしていくことが私は重要だと考えているんです。それで、今現在曲がり角に来てるから、いろんなものが大体15年先、この借地の問題も15年先、イオンの問題も15年先、これに向けて今もう一回考えるべきじゃないかと思いま

す。駅前イオンについて利用できれば、私は買物も一緒に市役所に行けるような気軽な場にきつとなるんじゃないかと思います。将来推計にしても、まだまだしっかり検証は不十分だと私は思います。将来に向けて、本当にもう一回この庁舎が必要なんだろうか。駅前イオンとこの庁舎、2つ持てば、2つ負担ができます。片方にすれば、1つで済みます。そのようなダイナミックな考えも必要なんではないでしょうか。将来を見据えて、私は今できる限り頭を使って準備をするべきだと思います。時間の関係でこれで質問は終わりますが、どうか将来に向けて準備しっかりしていただいて、議論を尽くしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。（拍手）